

第49回 防衛問題セミナー 「地形で読み解く河川災害の歴史 清流と青峰のくに信濃の守り」

* 開催目的

令和4年8月8日（月）～8月31日（水）の間、第49回防衛問題セミナーをオンライン配信により開催しました。

今回のセミナーは、令和元年10月に発生した台風19号の豪雨による長野県千曲川流域の大規模な浸水被害をはじめ、我が国の河川災害及び河川防災の歴史や特色、また、長野県内における自衛隊の災害派遣活動をテーマとして、地方公共団体や地域の皆様方に河川災害をはじめとした自然災害における自衛隊の活動について一層理解を深めていただくとともに、防災に関する知識の促進を目的としました。

* プログラムの内容

第1部講演では、特定非営利活動法人日本水フォーラム代表理事竹村公太郎氏と、松本駐屯地（長野県松本市）第13普通科連隊副連隊長浅埜良蔵2等陸佐よりご講演いただき、第2部Q&Aでは、長野県の地方公共団体及び国土交通省千曲川河川事務所の皆様からの質問に竹村公太郎氏と第13普通科連隊長兼松本駐屯地司令の鏡森直樹1等陸佐からご回答をいただきました。

第1部では、竹村氏から「地形で読み解く河川災害と日本人のアイデンティティ」をテーマに、河川災害が起きないように堤防を踏み固めてきた先人の知恵や考え方、日本の河川の成り立ち、地形から河川災害の歴史を読み解くという独特な視点でご講演いただきました。

また、浅埜2等陸佐からは「陸上自衛隊松本駐屯地の任務と災害派遣活動」をテーマに、松本駐屯地の任務や役割を分かりやすくご説明いただいたほか、自衛隊が対処した災害、平素の取り組み、令和元年度台風19号に係る災害派遣活動についてご講演いただきました。



第2部では、河川災害への備えや活動、河川事業の今後の展望、自衛隊の災害派遣活動や地方公共団体との連携等に関する疑問点について、地方公共団体の防災担当者や国土交通省千曲川河川事務所の河川管理担当者の方々の視点から質問していただきました。

竹村氏からは「地域の歴史を愛することが郷土愛。是非小中高生にもわかりやすい河川防災等の資料（パンフレット）を作成し教育を行ってほしい。」「江戸時代から作られていた堤防を守るように河川法も構成されている。」「行政が行う整備だけではなく、流域住民が川へ行き、家族と一緒に見守っていくことこそが河川を守ることにつながる。」「河川行政は分離し進化し続けている。国民の安全を守るためにすべての行政が協力し合っ県土を守っていくという時代に入ってきている。」とのご提言をいただきました。

また、鏡森 1 等陸佐からは「平素から防災訓練やそのための調整の場を通じて、中隊長等の責任者と主務者との連携を図ることが災害時の情勢を容易にすると考えている。」「自衛隊では、24時間、地上偵察班、調整班、先遣小隊の約30名規模からなるファストフォースと呼ばれる初動派遣部隊を編成して待機をさせている。」「災害発生時の情報収集については、体制は整えているが、氾濫予測情報をあらかじめ提供していただくと、事前に分析し準備ができるため、可能な限り提供してほしい。」「自衛隊の強みとしては、陸海空各自衛隊のアセット（装備品）を利用できることである。」など、自衛隊の災害派遣活動の取り組み方、体制等を丁寧に分かりやすくご説明いただきました。



* 視聴者からのご感想と視聴状況

こうした両講師からのご講演やご回答に対して、以下のような数多くの好意的な感想が寄せられました。

◆講演、質疑応答について

「「流域治水」の考え方の背景には、洪水対策に関する長い歴史と先人の知恵があることを改めて理解し、興味を深めることができた。」「堤防の歴史、水害ハザードマップの経緯について理解が深まった。」「地震や水害だけでなく、自衛隊の災害派遣について知ることができた。」「隊員が台風等の接近や災害予測の段階で、派遣出動に向け待機していることを知り、改めて自衛隊の存在意義を認識できた。」など

◆プログラム等について

「長野県の自治体の方とオンラインで集まる形式が新鮮だった。また、いい機会だと感じた。」「期間中何度でも自由に視聴できる形式が有難かった。」など

本セミナーの開催に当たっては、特定非営利活動法人日本水フォーラム、認定特定非営利活動法人日本防災士機構、陸上自衛隊松本駐屯地及び自衛隊長野地方協力本部のご協力をいただきました。また、質疑では長野県、安曇野市、飯山市、上田市、須坂市、千曲市、中野市、長野市、松本市、国土交通省北陸地方整備局千曲川河川事務所の職員の皆様に出演のご協力をいただきました。

本セミナーは、1, 166回の視聴をいただき、多くの方々に広く河川防災と自衛隊の災害派遣活動について、お届けすることができました。